

DOCUMENT
EYE

156

高速道路での後部座席のシートベルト着用状況を観察する
シートベルト着用者は442名中10名車内上部のグリップにつかまる大人
シートベルト非着用の高齢者

WHY

帰省シーズン、
高速道路での後部座席の
シートベルト着用状況は？

正月を故郷で迎える人たちの帰省ラッシュが12月28日から始まった。前日に仕事納めをした企業が多く、帰省で高速道路

観察場所 / 東京都町田市鶴間東名高速道路・横浜町田IC入口付近
観察日 / 12月29日(日曜日)
天候 / 快晴
観察時間 / 10:45 ~ 11:45
観察者 / 3名

横向きに座り、読書する子ども

WATCHING

前席に身を乗り出して話す
子どもやシートを倒して寝る人も

観察は、東名高速道路・横浜町田インターチェンジで横浜方面から東名高速へ流入するクルマの後部座席でのシートベルトの着用状況を調べた。あわせてチャイルドシートの使用状況についても観察した。帰省や周辺の行楽地をめざしていると思われる家族連れのクルマが多く、子どもや年寄りが後部座席に複数名乗車していることが多かった。

観察の結果、シートベルトの着用者は小学生とみえる子どもは105名中4名(3.8%)、大人にいたっては337名中わずか6名(1.8%)。全体では442名中10名と、たった2.3%に過ぎなかった。

なかには、後部座席から身を乗り出して、前席の両親に話しかける子どもや、長旅に備えてシートを倒し、毛布をかけ

路を利用し、故郷に帰る人も多い。

帰省時の高速道路は、夜間運転や長距離の移動が重なって過労運転のドライバーも出るなど、「見えない危険」がかなり潜んでいる。

現在、幼児を乗車させる際にはチャイルドシートの使用が、また、運転者および助手席に同乗する際にはシートベルトの着用が法制化されているが、後部座席はこの規定がない。そのため、後部座席でのシートベルト着用率は極めて少ないようだ。

1月号で、「一般道路を走るクルマの後部座席のシートベルト着用状況」を観察したのに引き続き、2月号では、帰省シーズンに家族連れで高速道路を利用するクルマの後部座席におけるシートベルト着用状況を観察した。

PROPOSE

シートベルトの重要性について
家庭で再認識する場を持つ

て寝ている人もいた。後部座席に座る高齢者も多かったが、シートベルト着用者は見られず、車体の揺れを避けるために車内上部のグリップを握りながら座っている高齢者を多く見かけた。小学生でシートベルトを着用していた4名のうち、2名はシートベルトが首にかかっていた。チャイルドシートの使用状況については、6歳未満と見られる幼児45名中28名(62.2%)がチャイルドシートを使用していた。未使用の場合は、母親や祖母が抱きかかえたり、膝の上に座らせている例が多く見かけられた。

今回の観察で、高速道路を利用するクルマの後部座席のシートベルト着用率が

高速道路での後部座席のシートベルト着用状況
(総台数 331台、後部座席同乗者487名 幼児45名含む)

着用 計10名

着用6
(1.8%)

大人
337名中

非着用331
(98.2%)

着用4
(3.8%)

小学生
105名中

非着用101
(96.2%)

幼児(チャイルドシート) 45名中

非使用17
(37.8%)

使用28
(62.2%)

「大人」「小学生」「幼児」の区分は観察者の見解
1時間のうちに観察ができたものについて記載